



「よく（善く）生きる」

東筑摩塩尻教育会会长 牛山 雅恵

もつと勉強しなくちゃ
なんか気持いい

雑誌『信濃教育』一六〇〇号記念に寄

せて、哲学者であり元日本聾話学校長の川田殖先生が書かれた「信州教育の根本にあるもの——のちを育てる心と力」の冒頭の一節、自発的集団の会に出た先生の手記である。この会には先生方、旧職員、保護者や一般の方の参加も

- 初心の会に出かける時
休日なのでもう少し眠つていていい
リラックスしたいなあ
やめよかな
- 初心の会に参加している時
もつと勉強したい
あの本買って読んでみようかな
家に帰つたら読むぞ
- 初心の会を終つて帰路につく時
本屋に寄ろうかな

以前勤務していた安曇野市の『古典学ぶ会』では、年に二回川田先生のご自宅近くの学校で、自主的に研修を行つて



第133号
発行者 東筑摩塩尻教育会
編集者 会誌会報委員会

優れた教師というものは、教案をじようすに消化し、要領よくカリキュラムをこなすだけではなくて、自らの一举手一頭足に自分の眞実をかけて、その思想を生き、自分の主張を生き、生きることを通してその思想を伝える人間でありましょう。

しかし当日、順番にテキストを読みながら、川田先生からの当時の歴史的背景や宗教などの説明や、参加された先生方の意見を聞く中で、わからなかつたことが理解されていくと同時に、次なる疑問も生まれてきた。一番印象深いのは、古代ギリシャの古典から、今自分たちがどう生きるのかという示唆をもらうことができたことである。それは「ただ生きるのではなくよく生きる」ということ、つまり「今、自分はこれでいいのか」という問い合わせいつも心の中に持ち続けることの大切さである。

塩筑教育の原点
縁あって再び川田先生との接点が生まれるのは、昨年の信濃教育会の雑誌『信濃教育』十一月号「わがふるさとの教育を支えた人々」で、本教育会の資料室委員会が手塚縫蔵の人物誌を執筆したことである。川田先生は塩筑教育会ともつながりが深く、また手塚を敬愛し、昭和五十四年に東筑摩塩尻教育会館で行われた「塩筑教育の原点」と題した講演で手塚を語る中で、教育についてこう述べている。

（塩尻西小学校）

手塚の『教育は人なり』という人格主義教育の真髄を言いたい文章である。手塚と共に学んだ私たちの先輩方は、一流の講師を招聘し語り合うことで人格を高め、教師としての資質を高めていった。掲載された原稿を読まれた後、川田先生からは「手塚の人格教育をぜひ若い人たちに受け継いでいてほしい」と電話をいただいた。

今できることは

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、三月からの突然の学校休業の後、六月からようやく学校が再開された。誰もが初めての経験である。しかしこの状況の中、私たち教職員は今までの学校教育のあり方を見返し、新しい方向に転換するためにはじめに結論し、議論してきた。そしてそんな中でも、子どもたちの「学校に行きたい」「友だちや先生と遊びたい」という切なる思いに応えないと、多くの学校で三密に気を付けながら、さまざまな校内研修が自主的に行われたと聞いている。「自分はこれでいいのか」「よりよく生きるために、自分は今何をすればいいのか」そうした先生方の思いや熱意と共に歩んでいく教育会でありたいと願っている。

会員発表

手塚縫蔵から学んだこと

令和元年度資料室委員会

中嶋廣多郎

「太郎は太郎らしく、花子は花子らしく。

「みんなで手をつなぎ
らしく生きよう」。

この二つは、塩尻市内の吉田小学校片丘小学校にある石碑に書かれている言葉です。子どもの存在そのものを大事にした手塚縫藏（以下・手塚とする）の信念は、今もなお、このように塩尻の学校に様々な形で残っています。

私は、昨年度まで一年間に渡り、東筑摩塙尻教育会資料室委員として、手塚の

言う「人格主義教育」について学ぶ機会をいただきました。手塚の主張と実践の

一端に触れていく中で、現代にも通じる教育課題を明らかにし、今を生きる自分たち教師が大切にすべきことは何かを探

たが教師が大切にすべきことは何かを教つていくために多くのことを学びました。その中で、手塚の遺稿集や手塚に関係

する書籍を読み、研究されていた青柳先生に、直接教えていただきました。学ん

だごとの、ごく一部ですが、少しでも多くの方に教育者、手塚について知つていただければと思い、まとめさせていただきました。

二 人格主義教育

「教育は人なり」この言葉には、「教育は何をおいても人格の育成こそが大切で

ある」「教育はそれを行う者的人格によ
るところが大きい」といった意味がこめ
られています。いずれの意味にせよ、こ
の言葉は、広く人格教育を象徴するもの
であると言えます。

この「教育は人なり」をいち早く主張
したのが、明治から昭和初期において長
野県教育の一時代を担つた手塚です。

昭和七年、時の文部大臣、鳩山一郎が
教育問題について質問した際、当時片丘
小学校長たつた手塚は「信州教育は、人
格教育である」と喝破しました。

手塚が生きた明治時代の後期は、明治
二十四年の文部省令で、学校で教育勅語
を必ず奉読することが定められるなど
国家主義的性格を強めていった時代でし
た。毎日教案を作り、校長の点検を受け
なければ授業ができない学校が出るなど
今の時代とはまた異なった問題をもつた
時代でもありました。

手塚の「教育は人なり」という人格主
義は、教員有志により結成されていた「東
西南北会」というグループの中で形成さ
れたものであるようです。

その手塚の主張は具体的にどのような
ものであったかを、雑誌等で発表した論
説からみていきたいと思います。

手塚は明治四十三年三月、雑誌『信濃
公論』に「信州教育の本義」を発表して
います。手塚はまず、「地氣なるものを
はなれて眞の教育はあるべきでない。」と
凡そ存在は個性である。: 特色あつては
じめてそこに物はある。: 信山の地氣は
とこしえに信山の地氣である。乃ち信州
の教育は長（とこし）えに信州の教育で
得ぬのである、第二に芸術的でなけれ
あらねばならぬ」とします。

続いて、信州教育の特質は、第一に哲
学的でなければならない（繹ねて眞淵に
及び、探つて根底をに触着せんば止み
の教育は長（とこし）えに信州の教育で
得ぬのである）、第二に芸術的でなけれ

ばならない（信州は詩の国、趣味の国、高き文芸の国、美術の国である）、第三に宗教的（意図的）でなければならないとしています。しかし、この三つは分けるものではなく、総括して「信山の教育は人格的であるべきである」と説いています。

かりました。教師の人格向上こそ教育の根本の問題であり、教師の人格向上は人格を以ておこなう他ない、という考え方であつたことがわかります。信州に根ざした教育を求め、人格主義教育を目指していつたのです。

ばならない（信州は詩の国、趣味の国、高き文芸の国、美術の国である）、第三に宗教的（意図的）でなければならぬとしています。しかし、この三つは分けるものではなく、総括して「信山の教育は人格的であるべきである」と説いています。

そして、信州の教育は器を作るのでではなく、人格的でなければならないと訴えました。この「信州教育の本義」の発表は、手塚が三十歳の時です。手塚は当時の「形式的・外面向的な教育」の改革に対しいち早く狼煙をあげていたのです。以後、この言葉が手塚の教育主張をつらぬく基盤となっていました。（なお、国語学者の西尾実は「教育は人である」という提言は手塚縫藏からであった」と証言しています。）

昭和二十二年、六十八才の手塚はラジオ放送で、「信州教育の真意」を語っています。

昭和二十七年には雑誌『信濃教育』で「信州の使命」を発表しています。これは松本市立女鳥羽中学校で教職員に語ったものです。これらの詳しいことについてはぜひ、「信濃教育第一五九六号」「信濃教育」わがふるさとの教育を支えた人々No.十 や塩筑教育第四十九号「青柳先生の講演記録」をご覧いただければと思います。

手塚の教育に対する主張は人格を重んじることであり、その主張は「信州教育の本義」から始まり、晩年に至るまで終始貫していました。

手塚を追い求めて、学んだことの一つに、今の時代と異なる教育的背景から手塚の人格主義教育の思想、手塚の言説や論稿を知ることができました。そして、感じたのは、やはり手塚は、教育は人格的であると接觸感化であると考えていたことがわ

かりました。教師の人格向上こそ教育の根本の問題であり、教師の人格向上は人格を以ておこなう他ない、という考え方であつたことがわかります。信州に根ざした教育を求め、人格主義教育を目指していつたのです。

かりました。教師の人格向上こそ教育の根本の問題であり、教師の人格向上は人格を以ておこなう他ない、という考え方であつたことがわかります。信州に根ざした教育を求め、人格主義教育を目指していったのです。

三 おわりに

「任重くして道遠し」
手塚が教育者として敬愛した杉浦重剛の言葉です。

片丘小時代、手塚が居るだけでその影響は子どもたちの上にまで及んでいました。手塚は常常「教育者は○○ではなくTo beが第一である。人は何を為したかではなく、いかに在ったかが大切である。これを取り違えることのないようにな志してもらいたい」と教職員に語ったと伝えられています。

その人の人格的影響によつて人を感化する、まさに「教育は人なり」であると考えさせられました。私自身、これから先もずっと教師としての道を進んで行くだろうと思います。その中で、手塚の生涯から学んだことをきつと振り返る日がくるはずです。そのときに、自分はどのような教師になつているのだろうかと考えることがあります。手塚が生涯をかけたつらぬき通した想いを自分も心に留めながら、これからも教師として歩み続けたいです。

最後になりましたが、資料室委員の人として、青柳先生を始め、牛山校長先生、吉越校長先生、二宮教頭先生など多くの先生方と語り合う機会をいただきました。これらは私にとって、本当に貴重でした。これからは私にとって、本当に貴重な経験となりました。本当にありがとうございました。
(片丘小学校)

特集「コロナ感染拡大防止に向けた学校現場と私たちの生活」

今、自分たちができることの中で

矢島幸太郎

本校は山間部にある、全校児童七十二名の小規模校である。昨年度三月からの本校の歩みはおおむね次の通りである。

三月→週に二回の家庭訪問日を設け、課題の配付回収をし、児童と顔を合わせた。

四月→新入生とその保護者のみ出席で入学式実施。始業から第一週は通常登校。以降は臨時休業に入ったが、各学年、週二回午前中のみの分散登校日を設定した。

五月→GW中の学びの一助になればと、村のケーブルテレビにて、県教委の学習動画に合わせて、生坂小・中学校の職員によるメッセージ動画を配信。GW明けは引き続き分散登校。

第四週より学校が再開し、午前中のみの一斉登校。第五週より、五時間授業での一斉登校。

六月→一日より通常登校再開。現在に至る。

以上のように、休業期間中も、家庭訪問や分散登校、動画配信などを通じて、児童・保護者との繋がりを保つことができた。



中にも成長し、未来への歩みを止めないために何をすべきか」「そもそも教育とは何だろう。学校の果たすべき役割とは」といったことを、立ち止まつて考える機会になつた。その中で私が思いを強くしたことは「コロナ禍でなくとも、そもそも想定外のことが起こるのが人生であり、その時々で立ち現れる課題に対して、自分で考え、行動できる自己主導型の人になつてほしい。教えを授かるのを待つのではなく、自ら学びに向かう主体的な学び手になって欲しい」ということであった。

そこで、限られた分散登校の機会に、教科書の内容を先に進めるだけでなく、「なぜ勉強をするのだろう」「今、家でできることはどんなことがあるだろう」「自分で自分を成長させるにはどのようなや

び手になつて欲しい」ということであつた。そこで、限られた分散登校の機会に、教科書の内容を先に進めるだけでなく、「なぜ勉強をするのだろう」「今、家でできることはどんなことがあるだろう」「自分で自分を成長させるにはどのようなや

の原義は「有るのが難しい」で、その対義語は「有るのが易しい」つまり「当たり前」である、という話を聞いたことがある。

子どもたちが毎日登校する日常を「当たり前」だと思っていたが、そうではなかつたことに気づかされる休業期間となつた。だから、子どもたちが毎日登校し、一緒に過ごせることに感謝である。本当に、「有り難い」し、嬉しい。

コロナ禍は終息したわけではない。失つた時間は戻つてこないし、今後もどうなるかわからない。だが、「コロナ禍にあっても、どうしたら未来へ向かって歩みを進み続けられるか」という課題に、これからも、子どもと一緒に取り組んでいきたい。そして、「できないこと」を嘆くのではなく、「できること」を見つけ、子どもたちと一緒に全力で取り組んでいきたいと思う。

(生坂小学校)

り方で学べばよいだろう」といつたテーマで子どもたちと話し合う時間を設けた。併せて「コロナはいつか必ず終わる。皆には明るい未来が待つていて。今、自分にできることを一生懸命やろう」ということを伝えた。また、家庭学習の具体的な取り組み方やその意図を丁寧に伝え、学校と家庭が同一方向を向いて子どもたちをサポートできるように努めた。子どもたちは、休業期間中も意欲的に学びを進め、休業が明けても学校での学びにスマートに移行することができた。その中で、私は、子どもたちには『自分で学び進む力がある』と実感することができた。

二年生は不参加で、卒業生・保護者・学校職員という最小限の人数で行われた。終業式はテレビ放送。そして三年生の最後の晴れ舞台である卒業式は、一

卒業生のことを思うとなんとも氣の毒で、複雑な気持ちになる式であった。

国民全体が様々な不安を抱えている中、新学期が始まろうとしていた。感染防止に向け、何とか学校を始めたいという一心で、様々なところで様々な対策が練られていく。

全校や学年が集まる集会は全てテレビや音声放送で行う。仲間や教師とのコミュニケーションや、関わりが学校の醍醐味なのに、人と人との接触を避ける。「歌声が響く広陵中学校」と謳っているのに、合唱は禁止。「対話的な学び」がこれらの中でも、子どもと一緒に取り組んで言われているのに、授業でのグループ活動禁止。このような感じで、学校に通うことで学んだり、体験できたりすることが制限された形での再開へと計画が進んでいった。

生徒たちは、仲間と会つて話すこと、教

コロナ感染拡大防止に向けた学校現場

小林健太朗

スで二回やるというのもなかなか新鮮な体験だった。分散登校中は、生徒の下校後、職員で入念に消毒作業を行った。また教室に全員揃うこと信じて…。

そして六月一日より、通常登校が再開されることとなつた。なんともうれしい限りである。私は休業期間、先生方の臨機応変な対応力、柔軟な計画力などに驚かさればかりであり、たくさん学ばせていただいた。悲しいこと、つらいこと、犠牲になつたことがたくさんあつたが、ポジティブに考えてみれば、人生の中でなかなか体験できない、とても貴重な時間であったと思う。「チーム学校」以前からストーリーとしていたこの言葉の意味を、身に染みて感じることができた期間であつた。やつと学校が再開されたが、コロナの脅威は完全に衰えたわけではない。感染防止の努力は怠らずに行い、「明日から休校」の言葉が耳に入つてこないことを願うばかりである。(広陵中学校)



室に全員揃うことができる喜びを改めて感じているように見え、学校全体としても活気があふれていた。生徒が学校に来ない日々を送っていた学校職員一同、「学校本来の姿が戻ってきた」と、職員室の会話も明るい内容ばかりで、生徒も職員もこれから学校生活に胸を躍らせていた。

そう意気込んでいたのも束の間…。現実はそう甘くなかった。再開してから三日後、「明後日から休校になる」と連絡が入つた。職員室内が騒然としたあの景色は今でも覚えている。急遽担任の先生方が各家庭に電話連絡することとなつた。職員室は「コールセンター状態」だつた。二十二時過ぎまで休校期間中に出で大量の課題を準備し、次の日は半日で下校。そして再び休校となつた。

五月の四週目から、分散登校が始まつた。スカスカの教室に違和感を感じながら、授業を行つた。同じ内容を同じクラ

スで二回やるというのもなかなか新鮮な体験だった。分散登校中は、生徒の下校後、職員で入念に消毒作業を行つた。また教室に全員揃うこと信じて…。

そして六月一日より、通常登校が再開されることとなつた。なんともうれしい限りである。私は休業期間、先生方の臨機応変な対応力、柔軟な計画力などに驚かさればかりであり、たくさん学ばせていただいた。悲しいこと、つらいこと、犠牲になつたことがたくさんあつたが、ポジティブに考えてみれば、人生の中でなかなか体験できない、とても貴重な時間であったと思う。「チーム学校」以前からストーリーとしていたこの言葉の意味を、身に染みて感じることができた期間であつた。やつと学校が再開されたが、コロナの脅威は完全に衰えたわけではない。感染防止の努力は怠らずに行い、「明日から休校」の言葉が耳に入つてこないことを願うばかりである。(広陵中学校)

STAY HOME の 中 で

小野 拓哉



オンライン会議とかオンライン授業なんてことが話題になつていてから Web カメラは必要だ。ネットで音楽や動画を見られるぐらいいの CPU と、ある程度のメモリーも欲しい。HDD は?え、今 HDD じゃないの? SSD ? 試してみたい。

の始まつた田んぼがひろがつてゐる。気持ちはいい。畠を敷き、布団を持ち込み、小さいオーディオも持ち込んだ。このオーディオにパソコンをつなぎ、ネットで音楽を流す。素敵な時間だ。

ところが、このノートパソコンが遅い。何年も前に、持ち運ぶことをメインに考えて、薄さと小ささを中心を選んで買った中古だから仕方ないのだが、とにかく遅くてイライラする。よし。パソコンを買おう。久しぶりにパソコンを買うことにした。

もちろん、そんなふざけた目的のために大金をかけられるはずもないの、例によつてネットオーディションで中古の安いやつだ。条件を考えよう。

オンライン会議とかオンライン授業なんてことが話題になつていてから Web カメラは必要だ。ネットで音楽や動画を見られるぐらいいの CPU と、ある程度のメモリーも欲しい。HDD は?え、今 HDD じゃないの? SSD ? 試してみたい。

SSD のやつにしよう。ということで、何日かかかつて安いノートパソコンを見つけ出し、無事落札。商品はすぐに届いた。あれ?なんかキーボードまわりがベタベタする。そういうえば商品説明にそんなことが書いてあつたような…。これは加水分解つてやつなのかな。ネットで調べるとエタノールで落ちるらしい。まだ到着したばかりなので少し躊躇はあつたが、ネットで調べ(なんて便利な時代でしょ)、『今、消毒用エタノールは貴重なのに』と思いつつ、エタノールを塗りたくつて掃除。なんとかベタベタはなくなつた(リモコンのベタベタにもきます)。お試しあれ。まだ十分ぐらいいしか使つてないのに、これで壊れたらどうしよう。と、ドキドキしながら電源を入れると、ドキドキしながら電源を入れると、充電のランプがつかなくなつたのは気にしないことにした。

いろいろあつたが、屋根裏部屋で使えるパソコンを手に入れた。使つてみると、速い! メインで使つていたデスクトップよりも速くて静かだ。やつた。

その後、学校が始まり、外出も少しはできるようになつて、ロフトでのんびり過ごすような時間は減つてしまつた。ということで、今ノートパソコンには、前からあつたモニターをつなぎ、マルチディスプレイにしてメインパソコンとして活躍してもらつてはいる。ロフトが荷物置き場に戻る日も近い?

(木曽橋川小学校)

令和二年年度

塩筑教育会組織

役員

| | |
|----------|-------------|
| 会長(代表理事) | 牛山 雅恵(塩尻西小) |
| 副会長 | 北野 宏治(生坂小) |
| 理事 | 柳生 高広(事務局長) |
| 常任委員長 | 西村 政和 |
| 副委員長 | 林 とよ美 |
| 監事 | 佐々木 英明(麻績小) |
| 常任委員長 | 福山眞太郎 |
| 副議長 | 柳生さよ美(山形小) |
| 総会 | 峰田由紀子(筑北中) |
| 副議長 | 会津 健市 |
| 小松 秀樹 | 小野 織江 |
| 早田 純 | 大谷 紀子 |
| 安藤 隆子 | 大池 あゆみ |
| 田中 正幸 | 横内 哲也 |
| 清水 義浩 | 橘 佳乃子 |
| 藤原 朱実 | 上條 水穂 |
| 金森 晴彦 | 松井 美香 |
| 田辺 圭一 | 阿部 孝一 |
| 山田 綾子 | 龍野 守 |
| 可知 貴彦 | 北條 度之 |
| 田辺 綾子 | 堀内 勝 |
| 山田 実原 | 大池 昌弘(宗賀小) |
| 波場 基成 | 小林 順一(塩尻中) |
| 智美 | 宮下 和久 |

本年度事業計画

1 各種研究委員会の推進について

各種研究委員会の性格

各種研究委員会は、東筑摩塩尻教育会の目的である「会員相互の研鑽により、職能向上に努め、以て文化の進展に貢献する」を達成するための大きな柱である。具体的には次の三点を踏まえて進めていく。

- (1) 研究や実践、並びにそれらの情報収集・情報交換を通して、会員相互の人間関係を密にし、職能の向上を図る。
- (2) 塩筑教育の課題を解決するため、できる限り会員の要望に応え、地域に密着した研究活動をする。
- (3) 塩筑教育の進展を期するため、会員やその他の教職員及び地域内児童生徒の教育のために、奉仕的な仕事をする。

2 研究主題および委員名

課題追究部

◎ 世話係 ○ 委員長)

小中連携(塩尻1)

中学校へスムーズに移行できるような学習面、生活面での指導のあり方について、連携を深める。

◎宮下明浩(吉田小) ○大池あゆみ(広丘小) 中嶋廣多郎(片丘小) 町田恵美(桔梗小) 佐藤みち子(吉田小) 宮崎達也(丘中) 南原真理(広陵中)

小中連携(塩尻2)

中学校へのスムーズな移行のための小中での学習指導のあり方について

◎勝野雅文(塩尻西部中) ○小泉豊土(両小野中) 渡邊萌香(塩尻東小) 江口真也(宗賀小) 塩原京子(木曾橋川小) 中野哲明(橋川中) 上原雄次(塩尻西部中) 青木修(塩尻中)

小中連携(中央)
中学校への期待を高める小中連携はどうあつたらよいか。～中一ギャップを乗り越えて～

◎伊藤茂(朝日小) ○百瀬公則(山形小)
中澤往訓(朝日小)

小中連携(北部)

新学習指導要領に対応した小中連携のあり方
◎北野宏治(生坂小) ○阿部孝一(筑北小) 藤原朱実(生坂小) 草間隆志(麻績小) 山田綾子(生坂中) 赤穂恵一(聖南中) 峰田由紀子(筑北中)

作品展運営部

児童生徒の書写力・鑑賞力を高め、指導者の資質の向上を図るための県展審査及び巡回書道展の企画・運営

◎細山和寿(塩尻西部) ○元島智子(山形小) 谷口奈美子(吉田小) 小松 誠(生坂小) 金井賢太(塩尻中) 北野里美(広陵中)

科学展委員会

科学教育の振興と探究的な児童生徒の育成

◎小河保宣(塩尻東小) ○金子和弘(塩尻東小) 畠田隆央(朝日小) 野溝美憲(広丘小) 上條隆久(桔梗小) 駒込恵里(聖南中)

美術展委員会

各校の児童生徒作品の研究を通して、児童生徒の表現に対する「見る目」を養う。

また、巡回展を通して多くの児童生徒が様々な作品と接し、美的感覚を高める。

◎古野房子(橋川中) ○吉江伸一郎(片丘小) 町田恵美(桔梗小) 水野 亮(山形小) 小林美月(丘中) 大西宣晴(生坂中)

読書感想文委員会

児童生徒が読書の楽しさを感じ得できるような読書感想文の書き方の指導はどうあつたらしいか。

◎青森隆俊(生坂中) ○百瀬玲子(木曾橋川小)

事業部
原知子(吉田小) 川村茉衣(塩尻東小)
中村公司(塩尻西部中) 西澤順子(筑北中)

会誌・会報委員会

教育会会員の教育実践、各校の活動紹介を中心とした親しみやすく読みやすい会誌会報の発行

◎米達治紀(広丘小) ○関澤京子(洗馬小) 小松葉子(塩尻西小) 丸山健二(宗賀小) 橋本早苗(朝日小) 林 法子(麻績小)

資料室委員会

資料室のデータ化

◎青柳信雄(桔梗小) ○田中正幸(吉田小) 吉原創太郎(桔梗小) 佐久間裕(広丘小) 山本智之(塩尻中)

情報ネット委員会

教育会ホームページコンテンツの検討および構築。教育会の活動の様子を広く紹介する。

◎山下 同(木曾橋川小) ○中澤哲也(丘中) 根岸徹矢(広丘小) 花岡和貴(筑北小)

その他

あり方委員会

公益社団法人として、公益にかない、会員にかかる教育会として、どのような組織事業の運営をしていくかを検討していく。

◎柳生さよ美(山形小) 清沢 剛(両小野中) ○会津健市(塩尻西小) 松村 大(山形小) 金森晴彦(両小野中) 山田綾子(生坂中)

二 県外視察・自主研究

県外・県内視察研修 募集人数 六名
自主研修(信濃教育会「教育論文・教育実践賞」)

・塩筑教育会からも研究助成金が出ますので、奮ってご応募ください。

三 助成事業

教科等研究会

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、第一回自主研修の日は中止となりました。

また、例年各研究会で行っていた夏期研修会や全県大会への参加、教育課程研究協議会への参加も多くの中止となっています。

国語

◎折橋善文 ○井出宏幸

・第二回主研修の日（國府田裕子先生による講演）

・松本支部との共催授業研究会（塩尻中学校）

・学会誌「信州国語教育」92号「会報」82号の発行 等

社会

◎柳生さよ美 ○鳥海 康

・夏期修会（松本市教育会同好会と共催）

・第二回自主研修の日（文化財研究会と合同開催の予定）

・実証授業による研究推進 等

◎小林順一 ○島津和浩

・県の研修会への参加（夏の研修会、冬の研修会）

・第二回自主研修の日（於 塩尻西部中学校）

・松本支会との合同研修会 等

理科

◎北野宏治 ○金子和弘

・授業研究委員会 ○実験講習委員会（美ヶ原宿泊研修、理科実験講習会）

・研修委員会（第二回自主研修の日 実験観察研修）

・H.P.運営委員会

・会誌発行（松本理研と合同で） 等

音楽

◎松田真理 ○倉科直美

美術

◎伊藤 茂 ○塩原俊郎

・デッサン講習会（県美研の開催 講師山本文彦先生）

・第二回自主研修の日（絵画や立体造形の指導実践例紹介実技、講習 等）

・長野県児童生徒作品展「今を生きる子どもの絵」の審査

・郡巡回展準備及び作品研究鑑賞会（吉田小学校）

・塩尻市国工美術展（えんぱーく）

・中信地区県児童生徒作品展選抜展（松本市美術館）

・長野県美術教育研究大会（下伊那大会）への参加

・「塩筑教育」へのカット協力、「県美術教育研究会報」への寄稿 等

体育

◎清沢 剛 ○早田 純

・郡研究授業

・定期学習会（桔梗小学校）

・第二回自主研修の日

・第61回長野県学校体育研究大会上伊那大会への参加

・第61回合宿研究会

・各種大会報告会 等

・第二回自主研修の日（技術分野、家庭科）

・分野それぞれでの研修（研修会の計画と実施 等）

英語

◎勝野雅文 ○重國敬子

・英語教育研究会

・第二回自主研修の日（新学習指導要領に向けた研修 等） 等

道徳

◎櫻井清志 ○木村忠美

保健

・第一回研修会（夏の研修会は中止、秋

特活（学級づくり）

◎古野房子 ○黒澤尚美

・第二回自主研修の日（学級づくりに役立つ研修会 講師は未） 等

哲学（コスモスの会）

◎中原敏 ○中原敏

・座禅会（長野市活禪寺 淵之坊 他）

・第二回自主研修の日（日常の中で考えるプラチ哲学）

・松本哲学同好会との合同読み合わせ会（正法眼藏隨聞記）

・信濃教育会障害學習研修講座への参加

文化財

◎青柳信雄 ○一條学

・第二回自主研修の日（社会科研究会との合同開催）

・松本市教育会分会材研究同好会との合同研修（今年度の実施については未定）

・県総生研究会への参加 等

書写書道

◎下條寿嗣 ○塩原義郎

・県児童生徒美術展（書写の部）審査会

・県書写書道教育研究大会参加（期日、会場は未定）

・第二回自主研修の日（教科書教材の実技研究）

・会誌「塩筑教育」にて誌上作品展 等

学校園

◎久保田雅樹 ○田中亮

・第二回自主研修の日（果樹・野菜栽培農家、加工工場等の見学） 等

・第一回研修会（夏の研修会は中止、秋

以降に状況を見て計画)
・松本市道徳教育研究会夏期研修会への参加
・第二回自主研修日（養護教諭育成支援リーダー研修者による企画） 等

・第二回自主研修の日（授業づくりと評価について 講師 田野口 弘 先生）の参加 等

・第53回長野県道徳教育学会木曾大会への参加 等

・松本との合同研修（夏・冬の研修会）への参加

・松塗筑合同研修会（支援の必要な児童生徒と共にできるエンカウンター）

・第二回自主研修の日（通常学級における支援会議のあり方 講師 大和田康子 先生）等

・大池昌弘 ○可知貴彦

・松本との合同研修（夏・冬の研修会）への参加

</div